

【原経済の行為論－大型類人猿と狩猟採集民における食物の授受をめぐって】

モノの「やりとり」は社会と自然とのインターフェースであるとともに、個人を接続する社会的営為です。これまで、この営為をめぐって哲学的な思惟が凝らされ、社会学や文化人類学ではさまざまな理論的アプローチが試みられてきました。また、経済学は、まさにヒトがモノを「やりとり」する側面を体系化した学問として成立しています。

このシンポジウムでは、大型類人猿と狩猟採集民における食物の授受についての事例の検討と討論をとおして「所有」、「互酬性」、「分配」などの諸概念を問いなおし、従来の諸分野よりも開かれた地平においてモノをやりとりする行為の根源性－原経済行為－を考察して、新しい研究の地平を切り拓きたいと思います。

■日時：2018年6月9日（土） 13:00～17:30

■場所：キャンパスプラザ京都 6階第8講義室（京都大学サテライト講習室）

※どなたでもご参加いただけます。事前申し込みの必要はありません。

■プログラム

13:00-13:10 趣旨説明 竹内潔（総合地球環境学研究所・客員准教授）

13:10-14:00 「チンパンジーの肉分配再考－ダイアッドを超えた対面的相互作用の場としての肉食クラスター－」

保坂和彦（鎌倉女子大学・教授）

14:00-14:50 「ポリフォニーとしての分配－狩猟採集民アカ人の事例から－」

竹内潔（総合地球環境学研究所・客員准教授）

14:50-15:00 休憩

15:00-15:50 「食物分配が平等原則の客体化であるとはどういうことか？－類人猿社会の食物分配と社会システムの関係－」

黒田末壽（滋賀県立大学・名誉教授）

15:50-16:00 休憩

16:00-16:40 コメント

鈴木滋（龍谷大学・教授）

松村圭一郎（岡山大学・准教授）

16:40-17:30 総合討論

シンポジウム終了後に京都駅近辺で懇親会を予定しています（当日アナウンスします）。

連絡先：竹内潔 ktake@wa3.so-net.ne.jp